

苫小牧工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語Ⅲ (情報科学・工学系)	
科目基礎情報					
科目番号	0062	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	創造工学科 (一般科目)	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	『高等学校現代文B [改訂版]』 (三省堂) / 参考図書は適宜紹介する				
担当教員	蓼沼 正美				
到達目標					
1. 論理的な文章について、その論理の展開や要旨を捉えることができる。 2. 文学的な文章について、その登場人物、情景、心情などを捉えることができる。 3. 語句の意味、用法を理解し、文体や修辞などの表現上の特色を捉えることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
1. 論理的な文章について、その論理の展開や要旨を捉えることができる。	論理的な文章について、その論理の展開や要旨を的確に捉えることができる。	論理的な文章について、その論理の展開や要旨をある程度の確に捉えることができる。	論理的な文章について、その論理の展開や要旨を的確に捉えることができない。		
2. 文学的な文章について、その登場人物、情景、心情などを捉えることができる。	文学的な文章について、その登場人物、情景、心情などを的確に捉えることができる。	文学的な文章について、その登場人物、情景、心情などをある程度の確に捉えることができる。	文学的な文章について、その登場人物、情景、心情などを的確に捉えることができない。		
3. 語句の意味、用法を理解し、文体や修辞などの表現上の特色を捉えることができる。	語句の意味、用法を理解し、文体や修辞などの表現上の特色を的確に捉えることができる。	語句の意味、用法を理解し、文体や修辞などの表現上の特色をある程度の確に捉えることができる。	語句の意味、用法を理解し、文体や修辞などの表現上の特色を的確に捉えることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	近代以降の様々な文章や作品を読解し鑑賞する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、人生を豊かにする態度を育てる。また、言語文化に対する関心を深め、言語感覚を豊かにし、積極的に国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
授業の進め方・方法	基本的には講義形式の一斉授業の形態を取るが、必要に応じて意見交換や討論の時間を設定する。評価については、中間試験40%、定期試験40%、提出課題等20%の割合で評価する。合格点は60点である。なお、前期成績及び学年末成績が60点未満の場合は、再試験を実施することがある。但し、再試験を受けた場合の成績は、前期成績及び学年末成績とも、60点を上限とする。				
注意点	教科書、ノートは毎時間、国語便覧、国語辞書等は、必要に応じて適宜準備をする。授業で扱う教材については、必ず授業前に目を通しておき、授業後は教授された内容を確認しながら、再度教材にあたっておくようにすること。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 論理的表現 (評論) を読む 「『なぜ』に答えられない科学」 (池内了)	授業の目的・方針等を理解する。 語句の意味、用法を理解し、的確に使うことができる。	
		2週	「『なぜ』に答えられない科学」 (池内了)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。	
		3週	「『なぜ』に答えられない科学」 (池内了)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。	
		4週	「『なぜ』に答えられない科学」 (池内了)	文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。	
		5週	「猫は後悔するか」 (野矢茂樹)	語句の意味、用法を理解し、的確に使うことができる。	
		6週	「猫は後悔するか」 (野矢茂樹)	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。	
		7週	「猫は後悔するか」 (野矢茂樹)	文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。	
		8週	中間試験	これまでの授業内容を確認する。	
	2ndQ	9週	文学的表現 (小説) を読む 余裕派及び夏目漱石について	余裕派及び夏目漱石について理解することができる。	
		10週	『こころ』 (夏目漱石)	文学的な文章について、それを展開する上での語句の意味、用法を的確に理解することができるとともに、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。	
		11週	『こころ』 (夏目漱石)	文学的な文章について、それを展開する上での語句の意味、用法を的確に理解することができるとともに、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。	
		12週	『こころ』 (夏目漱石)	文学的な文章について、それを展開する上での語句の意味、用法を的確に理解することができるとともに、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。	
		13週	『こころ』 (夏目漱石)	文学的な文章について、それを展開する上での語句の意味、用法を的確に理解することができるとともに、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。	

後期	3rdQ	14週	『こころ』（夏目漱石）	文学的な文章について、それを展開する上での語句の意味、用法を的確に理解できるとともに、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。
		15週	『こころ』（夏目漱石）	文学的な文章について、それを展開する上での語句の意味、用法を的確に理解できるとともに、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。
		16週		
	4thQ	1週	『こころ』（夏目漱石）	文学的な文章について、それを展開する上での語句の意味、用法を的確に理解できるとともに、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。
		2週	『こころ』（夏目漱石）	文学的な文章について、それを展開する上での語句の意味、用法を的確に理解できるとともに、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。
		3週	『こころ』（夏目漱石）	文学的な文章について、それを展開する上での語句の意味、用法を的確に理解できるとともに、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。
		4週	『こころ』（夏目漱石）	文学的な文章について、それを展開する上での語句の意味、用法を的確に理解できるとともに、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。
		5週	『こころ』（夏目漱石）	文学的な文章について、それを展開する上での語句の意味、用法を的確に理解できるとともに、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。
		6週	『こころ』（夏目漱石）	文学的な文章について、それを展開する上での語句の意味、用法を的確に理解できるとともに、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。
		7週	『こころ』（夏目漱石）	文学的な文章について、それを展開する上での語句の意味、用法を的確に理解できるとともに、登場人物のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。
		8週	中間試験	これまでの授業内容を確認する。
	9週	論理的表現（評論）を読む「である」と『する』こと（丸山真男）	語句の意味、用法を理解し、的確に使うことができる。	
	10週	「である」と『する』こと（丸山真男）	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。	
	11週	「である」と『する』こと（丸山真男）	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。	
	12週	「である」と『する』こと（丸山真男）	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。	
	13週	「である」と『する』こと（丸山真男）	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。	
14週	「である」と『する』こと（丸山真男）	文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。		
15週	「である」と『する』こと（丸山真男）	文章の構成や展開に注意して、主題や要旨を捉えることができる。		
16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べる事ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

			文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	前1,前5,後9
			専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	前4,前7,後15
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	後6,後7
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	後6,後7
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	後6,後7

評価割合

	中間・定期試験	課題	合計
総合評価割合	80	20	100
一般的能力	80	20	100